



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	クリーンリバーフィネス北24条ステーションフロント	階数	地上15階
建設地	札幌市北区北23条西3丁目19番330	構造	RC造
建物用途	集合住宅	平均居住人員	112人
竣工年	2024年2月 予定	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
敷地面積	1,090㎡	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	390㎡	評価の実施日	2022年11月24日
延床面積	4,210㎡	作成者	花里
		確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆ **A**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.81**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>・「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を新基準(H28基準)で取得し、「低炭素建築物新築等計画認定」を取得するなど、外皮性能の向上・省エネ効果の高い設備機器の選定などにより一次エネルギーの抑制し省エネルギー対策を行っている。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>・低炭素建築物新築等計画認定を取得し、日本住宅性能表示基準の一次エネルギー消費量等級5を満たす程、省エネルギー対策を充実させている。</p> <p>・効率の優れた潜熱回収型給湯設備の使用など、省エネルギー効果が期待できる設備を採用している。</p>	<p>B 省資源等</p> <p>・乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別を比較的にしている。</p> <p>・ODP=0、GWP(100年値)=1の断熱材を使用している。</p>
<p>C 緑化</p> <p>・道路境界、アプローチに植栽を多く設け、緑の潤いに満ちた空間となるよう配慮した。</p>	<p>D 蓄処理</p> <p>・敷地内車路・通路をロードヒーティングとし、冬季間の除排雪作業の軽減に努めています。</p>	

4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築SDGs推進センターのCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用	-				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分					住居・宿泊部分		全体				
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数								
Q 建築物の環境品質											3.2				
Q1 室内環境											3.3				
1 音環境											2.9				
1.1 室内騒音レベル											1.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音											3.0	0.50	3.6	0.50	
1		開口部遮音性能		T-2以上	3.0	1.00	5.0	0.30							
2		界壁遮音性能		-		-	3.0	0.30							
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	3.0	0.20							
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	3.0	0.20							
1.3 吸音															
2 温熱環境											3.0				
2.1 室温制御											1.0	0.50	3.7	0.71	
1		室温		-	1.0	0.63	3.0	0.63							
2		外皮性能	省エネ	レベル4を超える水準の断熱性能を満たす。	1.0	0.38	5.0	0.38							
3		ゾーン別制御性		-		-									
2.2 湿度制御											1.0	0.20	3.0	0.29	
2.3 空調方式											3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境											3.1				
3.1 屋光利用											1.8	0.30	4.0	0.50	
1		屋光率		2.0% ≤ [屋光率]	1.0	0.60	5.0	0.50							
2		方位別開口		-		-	3.0	0.30							
3		屋光利用設備	省エネ	-	3.0	0.40	3.0	0.20							
3.2 グレア対策											2.0	0.30	3.0	0.50	
1		屋光制御	省エネ	-	2.0	1.00	3.0	1.00							
3.3 照度											1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御											3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境											4.1				
4.1 発生源対策											3.0	0.60	5.0	0.63	
1		化学汚染物質		建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料(告示対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆)をほぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積の合計の90%以上の面積)に採用している。さらに、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用している。	3.0	1.00	5.0	1.00							
4.2 換気											3.0	0.40	3.6	0.38	
1		換気量		-	3.0	0.50	3.0	0.33							
2		自然換気性能		居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。		-	5.0	0.33							
3		取り入れ外気への配慮		-	3.0	0.50	3.0	0.33							

4.3 運用管理									
1	CO ₂ の監視								
2	喫煙の制御								
Q2 サービス性能									
1 機能性				3.0	0.40	3.8	1.00	3.6	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応		各住戸または各客室に100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境が整備されていること。						
3	バリアフリー計画			3.0	1.00				
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	2.0	0.40		
1	広さ感・景観								
2	リフレッシュスペース								
3	内装計画			3.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30				
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50				
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80				
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30				
1	躯体材料の耐用年数		住宅の品質確保の促進に関する法律(日本住宅性能表示基準、3.劣化の軽減に関する事)における木造、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準(平成26年国土交通省告示第151号)で等級3相当	5.0	0.20				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		3.0	0.20				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	16年以上～25年未満	4.0	0.10				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20				
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		2.0	0.20				
2.4 信頼性				2.4	0.20				
1	空調・換気設備			3.0	0.20				
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20				
3	電気設備			3.0	0.20				
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20				
5	通信・情報設備			3.0	0.20				
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.1	1.00	3.0	
3.1 空間のゆとり						3.2	0.50		
1	階高のゆとり		2.9m以上、3.0m未満			4.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ					2.0	0.40		

3.2 荷重のゆとり

-

3.0

0.50

3.3 設備の更新性				3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		-	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		-	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	3.1
1	生物環境の保全と創出	緑化	-	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	周辺は様々な色彩の建物が立地する為、彩度の低い色を基調とし周辺と調和するような計画としている。	4.0	0.40		-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	-	3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源緑化	-	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40		-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.00 品確法= 等級4を 超える 低炭素建築物認定基準の外皮性能適用条件を満たしている。	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	省エネ	-	2.0	0.10		-	2.0
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.81 -	5.0	0.50		-	5.0
4	効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価							-	
4.1	モニタリング	省エネ	-				-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-				-	
集合住宅の評価				3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	-	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-	3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	2.9
1	水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1	節水		-	3.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1	材料使用量の削減	省資源	-	2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	-	2.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が比較的容易である。	4.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				4.0	0.20		-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			壁装接着材	4.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源	-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0かつGWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	5.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源	-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.4
1 地球温暖化への配慮		省資源	-	3.9	0.33		-	3.9
2 地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止		省資源	-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 雪処理	-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		十分な駐車スペースを確保している。	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	-	3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.3	0.33		-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音		-	3.0	1.00		-	
2	振動		-	-	-		-	
3	悪臭		-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-		-		-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				4.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目の過半を満たしている。	5.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		建物外壁(ガラスを含む)の反射光(グレア)の発生を低減させる取組みを行っている。	4.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要

建物名称	クリーンリバーフィネス北24条ステーションフロント	BEE	1.7	BEEランク	A
建物用途	集合住宅				
延床面積	4,210.3 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 34.2 最低点 10)		合計		27.2点 / 34.2点	
Q1 温熱環境	スコア 4.3 / 4.6	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 / 4.0		
Q1 光・視環境	スコア 5.7 / 9.6	LR1 自然エネルギー利用	スコア 0.8 / 2.0		
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 10.0 / 10.0		
		LR1 効率的運用	スコア 2.4 / 4.0		
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計		15.0点 / 23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.7 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.7 / 9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.7 / 1.9		
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.9 / 5.0		
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.6 / 4.4		
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計		9.5点 / 15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.8 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.5 / 2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.8 / 6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 / 2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計		2.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 / 2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数